

2017「魚の国のしあわせ」プロジェクト行動計画

2012年に水産物消費の拡大に向けた官民協働の取組としてスタートしてから5年が経過し、本プロジェクトも大きな節目を迎えている。また、本年4月には新たな水産基本計画が策定され、水産物の消費拡大に向けた更なる取組が求められている。

- ◆ 2012年に水産物消費の拡大に向けた官民協働の取組としてスタートし、この5年間で一定の効果が得られたものの、未だ水産物の消費量は減少傾向で推移している。
- ◆ また、本プロジェクト発足から5年が経過したことにより、認知度の低下が指摘されており、「目新しさ」が求められている。
- ◆ さらに、本年4月に新たな水産基本計画が策定され、消費者等に対する魚食の普及を、生産から小売・外食に至る関係者が連携して推進すること、特に、学校教育等との連携を強化することにより、水産物消費の維持・拡大を図ることとされている。

「魚の国のしあわせ」プロジェクト 今後の取組

◆ 消費者は、主菜として魚介類を使う頻度を増やしたいという意向はあるが、「価格が高い」「調理が難しい」といった理由から、魚食を敬遠しがち

～実証事業やお魚かたりべによる魚食普及活動で魚食のおいしさや魅力をアピールし、価格が高くてでも「食べたい」と思わせることで、購買意欲を高める

～レシピサイト等で簡単なレシピを発信し、「調理が難しい」といったイメージを払拭

◆ ファストフィッシュを知らない消費者は72.2%と、認知度が低い

～ファストフィッシュ商品の製造現場を取材、レポートを作成し、公表する

～農林水産省の消費者の部屋でファストフィッシュに関する特別展示を行い、ファストフィッシュの普及活動を行う

～イベントでのリーフレット配布や水産庁Facebookの活用により、消費者に対し情報提供

◆ 水産庁長官によるお魚かたりべへの感謝状

～水産庁長官任命であるお魚かたりべに感謝状を送ることで、活発に活動されているには励みになり、休眠状態の方にはリマインド効果が期待される

◆ お魚かたりべのリストの整理

～お魚かたりべのデータを、出前授業を行ってほしい側（小中学校等）が検索しやすいように整理する

◆ 生産から小売・外食に至る関係者が連携し、消費者に対し魚食普及活動に取り組む

～様々な分野の関係者が参加するシンポジウムを開催し、交流・情報交換をしてもらい、今後の魚食普及活動に活用してもらおう

2017「魚の国のしあわせ」プロジェクト 具体的な取組



お魚がはこんでくれる、みんなのしあわせ



ファストフィッシュ

- ・ 29年度は、昨年度と同様に2回公募・選定
- ・ カテゴリー別ファストフィッシュ公募・選定を引き続き継続

実証事業

- ・ 民間事業者・団体の方々からの推薦
- ・ Fish-1グランプリ等で消費者に向けて情報発信

「魚の国のしあわせ」プロジェクト シンポジウム

お魚かたりべ

- ・ 講師登録やイベントの紹介
- ・ 活動の取材・報告
- ・ 農水省公式キッチンの活用

学校教育

- ・ 文部科学省との連携
- ・ 魚食普及活動の実績紹介

関係者が連携して、魚食のすばらしさを消費者にアピール

水産物の消費拡大へ

「魚の国のしあわせ」プロジェクト展開スケジュール

